

令和6年第2回定例会行政報告

本日ここに、令和6年第2回定例会を招集しましたところ、議員各位にはご多用な折、出席いただきまして、御礼申し上げます。

只今、議長のお許しをいただきまして、議会に先立ち、行政報告として、直近の主要な重点事業や政策課題の進捗状況など、行政活動の一端を申し上げ、議会の皆様始め、町民の皆様のご理解ご協力をお願い申し上げる次第であります。

3月定例会で議決いただいた令和6年度当初予算も4月より順調に取り組みを進めているところですが、今回の行政報告では、前回の行政報告以降、すなわち昨年12月以降を主な対象とし、特に、

1. 5月25日開催の竹灯籠の夕べ
 2. 6年ぶりの刊行となった町勢要覧
 3. 関東大震災発災及び震生湖誕生100年関連事業
 4. 中村下会館休館に至る対応
 5. 町内で多発する銅板・銅線盗への対応
 6. 中井中央公園遊びの広場の複合遊具
 7. 消滅可能性自治体への分類について
 8. あらたな生涯学習施設への取り組み
- 以上、8点についてご報告いたします。

5月25日に開催された、巖島湿生公園での竹灯籠の夕べは、コロナ禍で4年ぶりの開催となった前回は踏まえ、竹の切り出し・成形を業者委託することで、長年の懸案であった、連休明けから連日の準備に追われた、職員負担の軽減を図りました。これまでの協力者に加え、新たな個人、団体にもお声がけをしながら、多様なオブジェ制作にも一定の成果を得ることができ、当日は4千人近くの来場者が、幽玄に揺らめく竹あかりを堪能しました。

本町の課題の一つである竹害対策にも、今年度より、状況調査や、竹害との向き合い方に関する研修会を通し、本格的に取り組んでまいります。

他に類のない本町の魅力や暮らしぶり、総合計画に基づく施策の方向性などを伝える『町勢要覧』が3月に刊行されました。平成30年以来6年ぶりの刊行となった今回は、総合計画における将来像の「主役！」である「町民」を丁寧に掘り下げつつ、施策をめぐる町の紹介を、「ツアー」と見立て、本町の今とこれからを描き切りました。

これまでの要覧のイメージとは異なり、洗練されたデザインの本書は、すで

に好評で、有料での頒布のほか、各種イベント等で活用するダイジェスト版と合わせ、町内外で多くの方の目に触れていただきたく存じます。

震災から1年数か月、中井村役場、大正14年刊行の『中井村震災記念誌』は、原本が一冊しかないと言われ、議会の議決により、その再発刊が求められました。発災から100年を迎えた昨年、そのレプリカを文化財専門の復元技術により蘇らせたことに加え、歴史文書としての本書の価値と現代的意義を位置付けるため、地域史・災害史が専門の、東海大、馬場弘臣先生に解説いただきました。周辺地域の被害状況との比較により中井村の被害の大きさが改めて明らかにされ、広報で情報提供と求めた、編集者である松本愛敬（よしのり）氏の情報についても記され、最良の解説書となりました。

また、震生湖誕生100年の一環として、中井側からの入り口に、環境に配慮した駐車場を設置し、独自の案内図も調することで、町内周遊の起点としての展開へとつなげてまいります。

昭和53年、児童の健全育成のため児童館として開所された中村下会館は、耐震性やアスベストなどの課題があることから、令和2年の「中井町公共施設長寿命化計画」で「廃止」と位置づけました。令和5年度末をもって、耐用年数の45年を経過することから、利用中止としました。それに先立ち、地域のご理解を得るため、3月22、23の両日、地域懇談会を開催し、跡地の今後と、公共施設等総合管理計画についてお伝えしました。意見交換では、代替施設の柔軟な利用要望、身近な公共施設がなくなることへのご不安、また跡地についての具体的な提案を求める声を頂戴しました。跡地の活用方法は、売却はせず、これまでの利用や役割が集約される、新たな生涯学習施設の完成と状況を踏まえ、地域の皆様と検討してまいります。

世界的な銅の需給逼迫と価格高騰を背景に、転売目的とみられる銅板、銅線の盗難が、本町でも今年に入り急増しました。町では、2軒目の被害が判明した直後から、松田警察署と迅速に協議し、警備の強化を依頼すると共に、出来ることはすべて行う体制を取り、防災行政無線やSNS、各自治会長への注意喚起をマルチチャンネルで行いました。町施設でも巖島湿生公園内の東屋の銅板屋根が被害に遭い、県警機動捜査隊による夜間警戒や、事業者による自衛策も講じられましたが、予断を許さない状態が続いています。

建て替えに伴い閉鎖されてきた、井ノ口駐在所が2月に開所となりましたが、本町は松田警察署管内でも東端にあることを前提に、改めて連携を深め、安心・安全なまちづくりに取り組んでまいります。

中井町公園施設長寿命化計画に基づく再整備の一環として、社会資本整備総合交付金を活用し、中井中央公園遊びの広場に大型の複合型遊具を整備し、3月16日から供用を開始しました。特産品であるみかんをモチーフに、上り下りできる幅広の滑り台など、多様な遊具を組み合わせた、周回性の高いメイン遊具に加え、車椅子からも移乗が可能で、飛び跳ねても周囲に振動が広がりにくい、インクルーシブ遊具でもある「みかんポリン」に、保護者の見守りの場となるパーゴラやベンチを設置し、連日大賑わいとなっています。

中井町商工振興会主催の「花見で花火」といった意欲的なイベントと共に、名実ともに「里都まち交流拠点」として活性化が図られています。

4月24日、民間の有識者でつくる人口戦略会議による「令和6年・地方自治体『持続可能性』分析レポート」で、中井町が「消滅する可能性がある」市町村の一つに分類されました。令和2年の国勢調査の結果から、令和5年12月に国立社会保障・人口問題研究所が公表した「日本の地域別将来人口推計（令和5年推計）」に基づいて、2020年から2050年までの間で、20歳から39歳までの女性が半数以下となる自治体と定義され、想定していたとは言え、重く受け止め、まずは町民の皆様に不安を与えないよう、情報共有に努めると共に、引き続き、人口減少の課題に、臆することなく取り組んでまいります。

本定例会でも複数の方から一般質問をいただいておりますが、中井に住みたいが住む場所がないといった、地域的特性も見えてきたことから、町内事業所や事業者等と連携を密にした、移住・定住プラットフォームの形成も摸索しつつ、本町に住みたい、ひと家族ひと家族との出会いを着実に繰り返す、愚直で確かな人口増加策に努めてまいります。また、若い世代の移動理由を把握し、ジェンダーレスな雇用や働き方、暮らし方を提案しつつ、課題解消に努めてまいります。

「みんなの力で新たな施設を！」今月よりワークショップが開始される、新たな生涯学習施設建設は、すでにプレインタビューがSNS上で展開されるなど、日に日に機運が高まっていることを実感します。本町では四半世紀ぶりとなる大型公共施設であり、その後の利活用も含め多様な声が反映されるよう町民の皆様の参画を増してまいります。

一般質問でも多数の議員より多様な課題を取り上げていただいております。今議会でも活発な議論となりますようお願い申し上げ、行政報告といたします。

令和6年6月4日

中井町長 戸村裕司